

	学校教育	子育て関係	教育全般
渡邊委員	① 市外の学校で教頭をしていた際に、共生向上力、共に生き向上する力というものを教育課程の中核に据え、新しい教育課程を作り取り組んでいた。先ほど（倉上委員から）特別支援で共生社会の創生という話も出ており、そういう視点は大事なのかなと思う。		⑳ 三条市には、子ども・若者総合サポートシステムという、生まれてから、あるいは生まれる前から、若者や40歳弱までの人たちを、子ども・若者総合サポートシステムで支えていくというような理念がある。そういう中から考えると、当然小中一貫という理念もそこに相通じるものがあると思い、新しい教育方針を考えるときは、義務教育と保育園及び幼稚園、こども園というのを何かで一本、芯を通して結びつけていく必要があると思っている。 ㉑ 小中一貫、幼保小中、12年間の育ち、そんなような視点が新しい教育基本方針には必要だと思う。それを支える一つの側面としては、多様性、共生という視点が大事になってくるということを各委員の話を聞いて感じた。
山崎委員	② 教職員の多忙化解消の取組について、先に進まない理由の一つに、本来であれば家庭が担うべき内容についても学校教育において指導等しなければならないということがある。 弁当の日や食の指導、食育を学級担任が担っていることなど、これは一例であるが、小学校においてやらなければならないことがたくさんある。その中で三条市が何を大事にしていくかというところだと思う。 三条市で規模が異なる小学校がある中で、小規模校と大規模校が一律に同じような取組をしていくということではないんだろうなということを考えている。 また、ある程度成果があったことの中でも、それをずっと踏襲していくのではなく、発展的解消ではないが、例えば家庭教育にお返しをするなど、そういう考え方もあっていいのかなと思う。		
高橋委員	③ 社会を取り巻く環境の中で、今子供たちに対する評価あるいは子供たちに対する期待値というのが大きく多様化しているという風に思っている。例えば不登校という問題に対して、学校に行かないという状況、あるいは行けないという状況をどう捉えるかということについては、本当に大きな多様性を考えた上でやっていかなければいけない。 ④ 不登校というよりも、学習保障をどう構築していくかという風な形での考え方の切替えが必要になってくる。つまり、多様性をどういう風にしっかりと担保していくのかということが、大きな一つのテーマになるのかなという風に思う。 ⑤ 三条学園では、できるだけ地域の人たちと子供たちが関わって、地域との関わりを認識できるようなキャリア教育というのをやっていこうと考えている。そういう形で、子供たちがいろんなところでしっかり自覚できるというか、そういう教育の方針などを求められていくのではないかなという風に思っている。		㉒ 事務点検評価の中での経年の中で、C評価がついているものが、例えばBになったりAになったりしているというところは、どういう状況の中でAなり、Bなりになっていったのか、そこが果たして成果だったのか、それとも評価項目の把握のためにそうなったのかというところの整理をしっかりとしていきながら、基本方針を作っていかなければいけないのかなと考えている。 ㉓ 地域の人たちが、もっと多く子供たちと関わる。中学生も小学生もおっかなびっくり大人に関わっていくような今の世の中ではなくて、自然に世の中の一員として生きていけるということが、最終的に、未来に力強く生きる力を発揮できるという生き方につながっていくのではないかなというふうに思っていて、そのためのつくりをどういう風にやっていくのかというのが、基本的な肝に、今後なっていく必要があると思う。

	学校教育	子育て関係	教育全般
倉上委員	<p>⑥ インクルーシブと今よく言われているが、インクルーシブ教育システムの構築のためには、共生社会づくりという肩書があって、もう一つは特別支援教育の充実という肩書があって、その両輪が進んでいくことによって地域社会が充実していくと思う。</p> <p>⑦ 令和2年度に、県の特別支援学級ガイドラインというのが変わり、この考えに基づいて、各町、各市でいわゆる就学相談が進んでいると思う。三条市の推移を見ていくと、令和4年度、（特別支援学級の児童生徒数が）若干減っているが、ガイドラインの考え方に基づいていくと、もう少し減っていくと思う。そう考えると、いわゆる就学相談の進め方のあたりが改善できる余地があるのかなという風を感じた。</p> <p>⑧ 個別の指導計画を記載するというのは、もう数年来言われているが、ここから一步進めた形が出てくるのかなという風を感じている。</p>		
藤波委員			③⑤ 基本目標として挙げられている中の言葉で、「地域の子供は地域で育てる」ということが何より大事なことかなと思う。
近藤(一)委員		②① どういうふうに子供に様々なことを経験させていくかを、実践の中で深く考えようとする保育士が、だんだんと増えていると実感している。 小学校に向かう前の基礎をしっかりと育て、三条市の子供に生きる力の基礎が、しっかりとできるように取り組んでいきたい。	
味田委員	<p>⑨ コロナの感染状況で、学校の休校や学年閉鎖・学級閉鎖となっていて、家庭での学習が、保護者の負担になっているところもある。どんどん授業の日数が少なくなって、授業の内容が薄くならないか心配している。</p> <p>⑩ 特別支援学級へ通うことについて、保護者の決断が結構重要になっているんだなということ、他の保護者と話をしている。</p>		
諸橋委員	⑪ タブレット端末等が普及しており、違う社会の広がりも増えてきているんだと思う。インターネットを使うことにより、社会への関わり方が変わってくることについての学習が必要だと思う。		③⑥ 自分子供が通っている学校の様子からも、児童数がかなり少ないというのを感じており、保育所から中学校に入るまでずっと同じメンバー、同じ社会で過ごすのはどうなのかなということを感じている。
近藤(美)委員	⑫ 不登校の子ども達は、普段どのように過ごしているのか、どのような受皿があるのかということが気になる。	②② 発達に不安を持っていらっしゃる保護者の方がとても多く、0歳児のお母さんから小学校に上がっているお母さんたちまで、たくさん寄せられる。 三条市にある様々な相談所を紹介しているが、年々増えていると感じる。	
斎藤委員	<p>⑬ それぞれの学校のよさが保障された学校づくりというところを、基本方針の方に反映できればと考えている。</p> <p>⑭ それぞれの学校の教職員が、働きやすい環境の中で、そして地域や保護者の方に支えられて、一生懸命授業づくりに努めていけるような体制というものを保障していただければと思う。</p>	②③ 中堅の保育者の方や園長先生等を対象として、新しい幼児教育の流れというものを勉強するという意図の研修会の実施もいいのではないかと風に考える。	